



2021年9月10日

各 位

会社名	トヨタ自動車株式会社
代表者	取締役社長 豊田 章男
(コード番号	7203 東証・名証第一部)
お問合せ先	資本関連事業部長 蜂須賀 正義
(TEL.	0565-28-2121)

2021年9月ならびに10月の生産計画見直しについて

当社は9月ならびに10月の生産計画の見直しを決定しましたので、お知らせします。  
本件に関する詳細につきましては、別紙プレスリリースをご参照ください。

以上

## 2021年9月ならびに10月の生産計画見直しについて

東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大等に伴う部品供給不足により、9月ならびに10月の生産計画の見直しを実施いたします。9月は、8月19日公表の計画変更（[「9月の国内工場の稼働について」](#)）に、追加の変更となります。お客様及び関連仕入先の方々には、様々なご不便をお掛けすることをお詫び申し上げます。

今回の見直しに伴うグローバルでの影響台数は、8月時点の生産計画に対し、9月追加分が約7万台（海外4万台、国内3万台）、10月分が約33万台（海外18万台、国内15万台）の減産となります。

2022年3月期 通期生産台数見通しは、これまで930万台としておりましたが、今回の減産影響により900万台レベルを見込んでいます。11月以降の見通しは不透明である一方、足下の需要は非常に高いレベルで推移しており、これまでの水準を維持した生産計画を織り込んだ前提となっております。

減産の主な要因は、東南アジアでの新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴う、複数の現地仕入先の稼働低下や、半導体逼迫の影響です。東南アジアの感染拡大は、弊社工場・仕入先各社でも防疫対策・ワクチン接種に鋭意取り組んでいるものの、依然予断を許さない状況です。各所でのロックダウンなどの影響により稼働維持が難しい状況にあり、現在、可能な限り、他地域への生産移管を進め、全力でサプライチェーンの維持に努めております。また、半導体は非常に多くの業界で需要が高まっており、継続的に状況の精査を行うとともに、中長期的な手立てについて関係各社との協議を行っております。

需要の高い車種への柔軟な生産計画の変更を実施するなど、お客様に1台でも多く、1日でも早く、お車をお届けできるよう、愚直にあらゆる手を尽くしてまいります。

なお、2022年3月期第1四半期決算で公表しております通期営業利益見通し（2兆5千億円）に、変更はございません。

加えて、今回の見直しに伴う9月の国内稼働停止は以下のとおりです。10月分は現在精査中のため、詳細は9月中旬にお知らせいたします。

<9月の国内稼働停止(追加分)> (全14工場28ライン中、9工場10ライン)

工場名		稼働停止日程	生産車種
トヨタ自動車	高岡工場 第1ライン	27(月)、28(火)、 29(水)、30(木)	カローラ/カローラツーリング
	堤工場 第2ライン	24(金)、27(月)	カローラスポーツ、カムリ、ES
	田原工場 第1ライン	17(金)、20(月)、21(火)	プラド、GX、4Runner
	第1ライン	24(金)、27(月)、28(火)	NX、CT、UX、UX300e

トヨタ 自動車 九州	宮田 工場	第2ライン	24 (金)	ES、RX
トヨタ 自動車 東日本	岩手 工場	第2ライン	27 (月)	ヤリス、ヤリスクロス、アクア
	宮城大衡工場		27 (月)	ヤリスクロス、シエンタ、 カローラアクシオ、 カローラフィールダー、JPN Taxi
トヨタ 車体	富士松 工場	第1ライン	17 (金)	ランドクルーザー70
	吉原 工場	第2ライン	17 (金)	ランドクルーザー70
日野	羽村 工場	第1ライン	17 (金)、20 (月)、21 (火)	プラド、FJクルーザー

以 上